

- よく考える子
- やさしい子
- たくましい子

インフルエンサー（影響力のある人）

校長 伊東 孝泰

娘が中学生までは、できるだけ都合をつけ、年に1回は授業参観に行っていた覚えがあります。ですから、担任の先生方の顔は何となく思い出すことができます。子どもたちの教育に一生懸命取り組んでいる先生方を見て、同業者としてエールを送る気持ちで一杯でした。また、親ではできぬ、我が子への優しく厳しい指導に、インフルエンサーとして、先生に足を向けては寝られないな、とも思ったものでした。

後年、子どもとその先生方の話題となり、そのうちの何人かの方が教員を辞められたことを知り、愕然としました。詳細は分かりませんが、どうやら精神的な悩みが理由のようでした。たどたどしい授業ながらも熱意と子どもたちへの愛情が伝わるあの若い女の先生が1年で…。子どもたちに「もっちー」と呼ばれ、怒るとこわいが絶大な人気があったあの男の熱血先生が…。

今、教員の働き方改革を文科省が進めています。背景には、時代とともに、教員の物理的、精神的な負担が増大していることが挙げられます。また、勤務時間外まで及ぼす仕事量の多さが心身への疲労感をもたらしているといえます。でも、個々の教員は、そのことで子どもたちに悪影響があってはならないと考え、無理をして休まずに仕事を続けるのです。

子どもたちが、明るく元気に学校生活を送るためには、教師自身が心身ともに健康でなければなりません。しかし、先述したように、現在、教師は多忙感と疲労感にさいなまれています。そのことは、校長である私の悩みの種でもあります。

私が教員になりたての頃、慣れないこともあり4月当初から落ち着かないクラスになってしまいました。1学期の懇談会で、保護者の方々からいろいろなご指摘をいただき、うなだれるばかりの私でした。その時、ある保護者の方がこう言われたのです。「先生は、初めての学級で苦勞している。子どもたちのためにも私たちが、先生をしっかり支えてあげましょう。」その方にして私に対し、いろいろ思うことがあったらうに、そう言ってくださいました。疲れ切っていた私が、力を取り戻すには十分な言葉でした。

おかげさまで、本校には協力的で理解ある保護者の皆さんがいます。皆さんの温かく思いやりあふれる言葉にいつも我々教職員は勇気づけられ、元気づけられています。どうかこれからも、先生方にとって良きインフルエンサーとして支援していただければとお願いする次第です。

